



## 高齢者の住まいや施設について

ご本人の状態や生活状況、希望に応じて利用できる施設はいくつかの種類があります。

ここでは、代表的な施設の特徴や費用の目安を簡単にまとめました。

**公的施設の特徴：自治体や社会福祉法人が運営。入居条件はあるが費用は比較的安価**

施設の種類	主な対象者	特徴・サービス内容	費用の目安 (月額)
特別養護老人ホーム (特養)	要介護 3～ (特例あり)	長期入所が可能。介護サービスが充実していて費用も比較的安価。待機者が多いことも。	約 8～15 万円
介護老人保健施設 (老健)	要介護 1～	リハビリ中心。病院から在宅への中間施設。一定期間の利用が基本。	約 8～15 万円
介護医療院	要介護 1～	医療と介護の両方を提供。長期療養が可能で、医療体制が整っている。	約 10～20 万円
ケアハウス (軽費老人ホーム)	自立～	食事・生活支援付きの住まい。介護が必要な場合は外部サービスを利用。費用が比較的安価。	約 5～15 万円

**特別養護老人ホーム（特養）**：要介護 3 以上の高齢者が対象の長期入所型施設。介護スタッフが 24 時間体制で常駐し、食事・入浴・排せつなどの介助を行う。費用が比較的安く、生活支援も充実しているが、人気が高くて入所待ちが長いことも多い。

**介護老人保健施設（老健）**：病院から在宅への“橋渡し”として使われる中間施設。リハビリを中心に、在宅復帰を目指す人が一定期間入所する。医師やリハビリスタッフが常駐していて、医療と介護の両方を受けられるのが特徴。

**介護医療院**：長期的な医療と介護の両方が必要な高齢者向けの施設。医療体制が整っていて、慢性疾患や重度の要介護状態でも安心して生活ができる。医療ケアが必要だけど病院ではなく、生活の場として落ち着いて過ごしたい人向け。病院に併設されていることが多く、施設数は少ない。

**ケアハウス（軽費老人ホーム）**：主に低所得の高齢者が対象で、自立して生活できるが一人暮らしが不安な人向けの住まい。食事の提供や生活相談などの支援があり、介護が必要になった場合は外部の介護サービスを利用するスタイル。費用が抑えられていて、安心して生活出来る環境。

## 民間施設の特徴：企業が運営する。サービスや施設が充実しているが費用は比較的高額

施設の種類	主な対象者	特徴・サービス内容	費用の目安 (月額)
介護付き有料老人ホーム	要介護 1～	介護スタッフが常駐。施設内で介護サービスが完結。手厚いケアが受けられる。	20～30 万円程度
住宅型有料老人ホーム	自立～	生活支援が中心。介護が必要な場合は外部サービスを利用。自由度が高い。	15～25 万円程度
サービス付き高齢者向け住宅（サ高住）	自立～	バリアフリー住宅。安否確認や生活相談付き。介護は外部サービスを利用。	10～25 万円程度
グループホーム	要支援 2～ 認知症の方	少人数で家庭的な環境。認知症ケアに特化し、地域密着型の支援が受けられる。	12～20 万円程度

**介護付き有料老人ホーム**：介護サービスが施設内で完結するタイプの有料老人ホーム。介護スタッフが 24 時間常駐していて、手厚いケアが受けられる。サービスが充実している分、費用はやや高め。

**住宅型有料老人ホーム**：自立～軽度の要介護者向けの施設で、生活支援が中心。介護が必要な場合は、訪問介護などの外部サービスを利用する。自由度が高く、自分らしい生活を続けたい人向け。

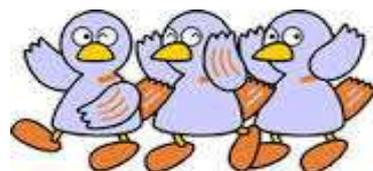
**サービス付き高齢者向け住宅（サ高住）**：バリアフリー設計の賃貸住宅で、安否確認や生活相談などのサービスを提供。介護が必要になったら外部の介護サービスを利用するスタイル。

**グループホーム**：認知症の高齢者が少人数で共同生活を送る施設。家庭的な雰囲気の中で、スタッフの支援を受けながら生活が出来る。地域密着型で、住み慣れた場所での生活したい人向け。

### 施設選びのポイント

- ① ご本人の介護度、医療の必要性に合っているか
- ② 立地条件
- ③ 費用
- ④ スタッフの雰囲気・人柄
- ⑤ 入所可能な期間や退所の条件について

わからないまま決めず、早めに相談することが大切です。



記載の内容は、2025 年 12 月の情報に基づいています。今後の制度等の改定により内容に変更が生じる可能性がありますのでご了承ください。

埼玉県立循環器・呼吸器病センター  
患者サポートセンター